

新作バッジ(ややずれた失敗作)を着けていただける「バッジサポーター」を募集中！詳しくはメンバーまで。無料！

「おもてなしバッジプロジェクト」物語 ～1年間の感動をおすそわけ

きっかけは？

平成15年度の民間企業派遣研修を通じて、県職員のマナーアップに関心をもった松本有加さんが庁内LAN内の提案DBひとり1改革に「マナーバッジ」を提案したことで始まりました。最初は消極的な書き込みがあったものの、「こんなのできるからやろうよ」という声が集まり、またちょうどイラスト作家の赤池キョウコさんの愛読者の集まりがあり、この仲間が中心になって動き出しました。

さらに、16年8月に愛知県高浜市で開かれた自治体職員有志の会シンポジウムにメンバー3人が参加し、尼崎市の白井市長から「公務員って話をしても能面みたいに表情のない人が多い」と言われた一方、他自治体でがんばってる職員から大いに刺激を受け、できることから始めようと意を強くしたんです。

キャッチコピー

県職員を中心に約50名から募集し、投票及びメンバー推薦により決定しました。

募集や投票を通じて、どんどん輪が広がっていくことを感じました。ある人の言葉、「自分は県庁よりも外でがんばろうと思ったけど、中でがんばるのもいいねえ」は、特にうれしかったなあ…。



製作

静岡市ワーク春日（静岡市春日3丁目3番10号 電話054-221-1630）静岡市が設置、静岡市社会福祉協議会が運営する身体障害者通所授産施設で、名刺や県民だよりの点字印刷、会議のテープ起こし、電話アンケート調査等を行っています。

バッジ制作にあたって、障害者の授産施設を探しましたが、県外にはあってもなかなか県内には見つかりませんでした。でも私たちが仕事抜きで活動していることが、福祉関係者の間で話題になるなど、思いがけず反響があり、ワーク春日さんが引き受けてくれることになりました。

製作が始まった12月中旬、メンバーで見学に行くと利用者みなさんが既にバッジをつけて迎えてくれたことに感動。視覚障害のある方、片手が自由に動かない方達が工夫をして機械を動かして、器用にバッジを作ってくれました。品質チェックなども本格的で、仕上がりもきれい。その上、何とんでもうれしそうに作業してくれていることで、もっとうれしくなりました。

イラスト

赤池キョウコさん（静岡市イラスト作家）コミック&エッセイ「ハッピーな奇跡がやってくる」など著書多数。静岡市役所でも公用車ステッカー、環境冊子コミックを手がけるなど幅広く活躍中。

今回のバッジに著作権マークを表示することも検討しましたが、目的への賛同とスペースの少なさのため、彼女の好意により省略しています。感謝！

<http://www3.tokai.or.jp/kyontan/>



イラスト © 赤池キョウコ

「懐より中身をあつためたい」とは…、販売価格200円は、材料費等を除き、全て障害のある方の作業工賃となります。たくさん売れても県職員、作家、施設の懐はあつたまりませんが、ほら、あつたまるでしょ、という意味です。

トピックス

職員時報新春号に掲載 静岡新聞朝刊（1月6日）に掲載 リビング静岡（2月5日）に掲載

市原市（千葉県）の行政改革推進室職員等が作った「カエル（変える）バッジ」と交換

SOHOしずおかビジネスプランコンテストにて展示紹介（2月15日 静岡市B-nest）

実質2週間で初作600個完売！岩手から沖縄まで、病院、学校他たくさんの注文がありました。

ある県では、この3者協働方式で独自に検討に入るとの情報も！？みなさんの協力に感謝します。

詳細は、静岡発「まちづくり」への初めのいっぽへ <http://www2u.biglobe.ne.jp/~roku-3/>